

6. 希少種モニタリング

6.1 目的

宮古諸島に導入されたイタチは、キシノウエトカゲやミヤコカナヘビ（宮古諸島の固有種）等の在来種の減少に大きく関与していると考えられている。今後、イタチの防除を進めると同時に、これら在来種の回復状況について把握することは、防除の効果を評価する上でも非常に重要となる。

今回、イタチの防除が開始される前の在来種の生息状況についての基礎情報を収集するため、主に爬虫類を対象とした在来種モニタリングを実施した。

6.2 方法

モニタリングを行う場所は、作業部会の委員と協議の上、宮古島内で3地域、伊良部島内で2地域、池間島、大神島の計7地域とした（希少種の生息情報を含むため、場所の詳細は明記しない）。

調査は、日中及び夜間に、主に爬虫類を対象として、地域内を踏査した。対象とする種が確認された場合、種名、日時、確認数を記録し、写真撮影を行うとともに、GPSにより位置情報を記録した。また、外来種が確認された場合、同様に記録を行った。調査は春調査と夏調査に分けて実施し、春調査は平成29年3月13日～4月20日にかけて、夏調査は平成29年7月24日～7月28日にかけて実施した。

6.3 結果

(1) 調査努力量

調査地域ごとののべ調査時間と調査距離を調査期間ごとに示した（表 6-1）。春調査はのべ調査時間が 56.4 時間で計 64.85km の調査を行い、夏調査ではのべ調査時間が 50.43 時間で計 60.41km の調査を行った。なお、同一地域での日中と夜間の調査日が異なる場合があり、また、調査範囲が広いために調査日が数日にまたがる場合がある。

表 6-1 各地域の調査努力量

地域名	調査地環境概要	春調査(H29年3月～4月)						夏調査(H29年7月)					
		のべ調査時間(h)			のべ調査距離(km)			のべ調査時間(h)			のべ調査距離(km)		
		日中	夜間	計	日中	夜間	計	日中	夜間	計	日中	夜間	計
宮古島A	内陸山地	6.07	5.17	11.23	9.51	8.59	18.10	6.53	4.62	11.15	10.37	8.06	18.42
宮古島B	内陸平地	5.52	3.03	8.55	4.34	1.72	6.06	3.05	3.33	6.38	2.22	2.53	4.75
宮古島C	海岸部含む平地	1.60	3.17	4.77	2.42	2.03	4.45	2.73	2.67	5.40	2.52	1.24	3.75
伊良部島A	内陸山地	7.43	5.00	12.43	6.42	5.43	11.84	7.43	4.32	11.75	5.97	5.13	11.10
伊良部島B	平地	3.20	2.58	5.78	5.54	3.83	9.37	2.85	2.85	5.70	3.65	4.24	7.89
池間島	海岸部含む平地と山地	2.48	2.28	4.77	2.80	2.21	5.01	2.40	1.93	4.33	4.60	3.65	8.25
大神島	海岸部含む平地	5.50	3.40	8.90	6.54	3.48	10.02	4.17	1.55	5.72	4.15	2.10	6.25
計		31.8	24.6	56.43	37.6	27.3	64.85	29.2	21.3	50.43	33.47	26.9	60.41

(2) 確認種一覧

確認種一覧および春調査・夏調査合計の確認数をまとめた。調査の結果、在来種として爬虫綱の 1 目 5 科 10 種、外来種として哺乳綱、鳥綱、爬虫綱の 6 目 8 科 10 種が確認された。在来種の確認数をみると、サキシマキノボリトカゲが最も確認数が多く 175 個体が確認され、次いでミナミヤモリの 157 個体、ミヤコカナヘビの 122 個体となった。また、主な在来種の地域別の確認状況をみると、サキシマキノボリトカゲは 5 地域で確認、キシノウエトカゲは 4 地域で確認、ミヤコトカゲは 3 地域で確認（海岸部付近のみ）、ミヤコカナヘビは 6 地域で確認があった。

外来種の確認数をみると、ホオグロヤモリが最も確認数が多く 230 個体、次いでヤエヤマイシガメの 82 個体、インドクジャクの 25 個体となった。